

令和7年度 山口県立大学 国際文化学部 文化創造学科  
総合型選抜 二次選抜

個人プレゼンテーション課題

<問い合わせ>

あなたの暮らす地域に、新しく書店ができることになりました。その書店を地域にとって、文化的で魅力的なものにしていくための工夫やプランを提案してください。書店の性質・特色については適宜、設定して構いません。

資料1、資料2を参考に、5分程度のプレゼンテーションをしてもらいます。そのために、400文字以内の文章によりプレゼンテーション要旨を解答用紙に記入し、プレゼンテーションに用いる資料として画紙3枚を作成してください。

# 街の書店 文化拠点に

スキャナ  
SCANNER

# 和の情報発信 観光の場にも

9年)に開業した同店は、木の内装を生かす。「旬の京都を発信する」をモットーにして、約1100平方㍍の店内には和の雰囲気が漂う。京都関連の本が充実し、外国人観光客が目立つ。イベントスペースもそこにある。

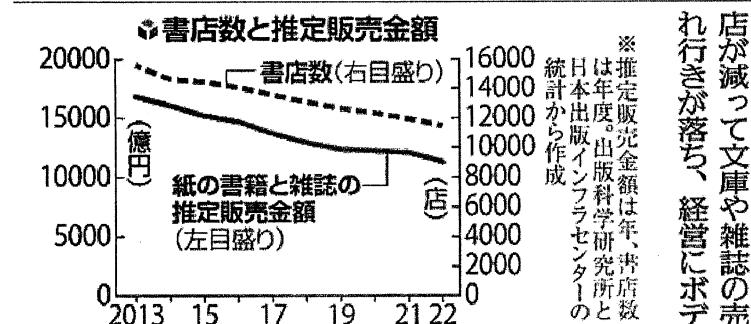
国際交流基金の招きで4日、中・東欧の編集者11人が見学に訪れた。ポーランドの出版社オーナー、アドリアンナ・ボシンスカさん(43)は、「ポーランドでも

書店の生き残りは大変です。日本の書店は本を主体に季節感のある雑貨を美しく配置し、また来なくなる場になっていた」と驚く。同基金によると、海外では日本の漫画のほか、「コンビ二入間」で注目された村田沙耶香さんや川上未映子さんらの現代女性文学に関心が高まっている。実際に書店で本に触れるなどを望む関係者も多いという。(大阪文化部 中井道子)

地域文化振興の拠点として街の書店を位置づけ、支援する大臣直属の「書店振興プロジェクトチーム」を経済産業省が5月に設置した。全国で書店が減る中、関係者の期待は大きい。具体的な支援メニューの作成に当たっては、本好きだけでなく、無読層へのアプローチも課題となる。

(文化部 小杉千尋、池田創)

地域文化振興の拠点として街の書店を位置づけ、支援する大臣直属の「書店振興プロジェクトチーム」を経済産業省が5日に設置した。全国で書店が減る中、関係者の期待は大きい。具体的な支援メニューの作成に当たっては、本好きだけでなく、無読層へのアプローチも課題となる。



「イーブロー」のようにならぬ  
いふ。支援は歓迎」（大手  
出版社幹部）と早くも声が  
上がる。

り分は売り上げの2割余りと小さい。かつては雑誌と文庫、漫画が経営を支えたが、インターネットの普及に伴うネット書店の台頭、配信サービスなど娯楽の多様化でこの構造は崩れた。日本出版インフラセンターによると、2022年度の書店の総店舗数は一万1495店で、13年度と比べ約4100店減った。

一方、書店は地域の文化を担い、住民の愛着が強い。東京都杉並区のJR阿佐ヶ谷駅前では2月10日、「八重洲ブックセンター阿佐ヶ谷店」が開業した。この地

「終が」が譲る

■ブックハウスカフェ(同千代田区)

- 子どもの本の専門店で、読み聞かせイベントも充実
- カフェやバーを併設

■さひや書店(本店・盛岡市)

- 出張販売など、地元に根ざす
- 県内のメーカーと連携し、オリジ

が  
あればいい」と提案  
都心の港区で森ビル  
発を進める六本木ビル  
麻布台ビルズは、テナント  
に書店が入る。来訪者  
調査では、街の利用者  
しい施設・店舗」のア  
ートに「書店」がよく  
るという。書店は利益  
低いものの、街の知的  
メージや「ミュニティ」大  
りにもつながる」とか  
料を抑えている。

12・6冊で、やや増加傾向にある。  
月間に小学生が読んだ本が開  
シント  
トの「ほ  
ンケ  
拳が  
益率が  
的ない  
一作  
から質  
作り  
改から  
やほど  
国語に  
専修大の植村八潮教  
(出版学)は、「子ども代の読書の習慣を大人にう続けさせるかが大切だ」と述べる。書店は単に新刊を並べるだけでなく、イベントな運営を工夫し、本から連れてきた人も改めて読書のきっかけを得るような魅力的場へと変わってほしい」と語る。

# 国が支援PT

**減少歯止めへ  
本好き増やす**

にあつた書店を引き継いだ。現在、佐賀市と2店を営む。経営の経験を踏まえ、「本に限らず、現在は様々

「街中にある書店は多様なコンテンツに触れることができる場として地域に親しまれ、創造性が育まれる文化創造基盤として重要である」と認識をしております」

プロジェクトチーム設置について、林官房長官は12日の記者会見で述べた。

今回のプロジェクトチー

ムは、経産省が部局横断型で進めるものだ。今後、早期に書店関係者らと車座ヒアリングを開く。カフェを併設し、魅力的な読書空間を作るなど図られた事例を共有し、要望を探るという。

書店振興は、出版社の経営にも広く影響する。「書

The chart illustrates the decline in the number of bookstores and the estimated sales volume of books and magazines over a ten-year period. The left y-axis represents the estimated sales volume of books and magazines (左目盛り) in billions of yen, ranging from 0 to 20,000. The right y-axis represents the number of bookstores (右目盛り) in thousands, ranging from 0 to 16,000. The x-axis shows the years from 2013 to 2022.

年	書店数 (右目盛り)	紙の書籍と雑誌の 推定販売金額 (左目盛り)
2013	15,500	18,000
2015	14,500	16,000
2017	13,500	14,000
19	12,500	12,000
21	11,500	10,000
22	11,000	9,500

※推定販売金額は年、書店数は年度。出版科学研究所と日本出版インフラセンターの統計から作成

イーブローのように響いている。支援は歓迎」（大手出版社幹部）と早くも声が上がる。

### ■ピークの4割減少

取り組みに期待が高まるのは、紙の出版物の不振とともに全国の書店減少が止まらないためだ。出版科学研究所によると、2023年紙と電子を合わせた出版市場規模は、1兆5963億円。紙に限ると1兆612億円で、ピーク時の1996年の4割以下だ。

紙の出版物は、薄利多売の経営モデルで、書店の取谷店」が開業した。この地

り分は売り上げの2割余りと小さい。かつては雑誌と文庫、漫画が経営を支えたが、インターネットの普及に伴うネット書店の台頭、配信サービスなど娯楽の多様化での構造は崩れた。日本出版インフラセンターによると、2022年度の書店の総店舗数は一万1495店で、13年度と比べ約4100店減った。

一方、書店は地域の文化を担い、住民の愛着が強い。東京都杉並区のJR阿佐ヶ谷駅前では2月10日、「八重洲ブックセンター阿佐ヶ谷駅前」が開業した。この地

で40年以上経営した前身の書店が、昨年11月に営業終了を発表。地域から書店が消えかけたが、大手チェーン「八重洲ブックセンター」の佐藤和博社長が跡地を譲り受けた決断をした。

約350平方㍍の店舗の客で連日にぎわいを発表。地域から書店が勢の1か月で手応えを出た」と話す。今後、読書家の今村翔吾さんベントの開催も予定す

阪府箕面市で、閉店の往来堂書店(東京都文京区)

- オリジナル文庫フェア「D坂文庫」
- 客の興味をかきたてる「文脈棚」と呼ばれる個性的な棚作り

ブックハウスカフェ(同千代田区)

- 子どもの本の専門店で、読み聞かせイベントも充実
- カフェやバーを併設

さわや書店(本店・盛岡市)

- 出張販売など、地元に根ざす
- 県内のメーカーと連携し、オリジ

<p>■きつかけ作り</p> <p>書店の支援は文化に開拓する。 語る。</p>	<p>現在の日本で、普段から 読書に親しむ人はそれほど 多くない。文化庁の国語に 感じる。は大</p>	<p>専修大の植村八潮教 (出版学)は、「子ども 代の読書の習慣を大人に う続けさせるかが大切だ 書店は単に新刊を並べる だけでなく、イベントな 連営を工夫し、本から貢 われた人も改めて読書の かけを得るような魅力的 場へと変わつてほしい」</p>	<p>は、2023年5月の1 月間に小学生が読んだ本 12・6冊で、やや増加傾 向にある。</p>
<p>い 経営を教える 書店を始 めたい人を支援する仕組み があればいい」と提案する。 都心の港区で森ビルが開 発を進める六本木ヒルズや 麻布台ヒルズは、テナント に書店が入る。来訪者らの 調査では、街の利用者の「ほ しい施設・店舗」のアンケ ートに「書店」がよく挙が るという。書店は利益率が 低いものの、街の知的なイ メージや「ミニユーティー作 りにもつながる」とから貢 料を抑えている。</p>	<p>ナルしようゆを販売</p>	<p>は大</p>	<p>は大</p>

## 中・東欧の編集者が見学

(出典 『読売新聞』東京朝刊、2024年3月13日、p.3による。以上の紙面に、項目を一部省略し、体裁について最小限の手を加えた。)

## 資料 2

以下の表は、全国 18 歳以上の日本国籍を有する 3,000 人を対象として、2023 年に行われたアンケート調査の結果をまとめたものです。

調査の中で、「あなたは、「文化」という言葉に対して、どのようなイメージを強く感じますか。この中から 2 つまであげてください」と尋ねたところ、以下の表に示した結果となりました。回答は、それぞれの回答者数を母数とした百分率（%）で示しています。

	全体	年齢別						
		18-19 歳	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70 歳以上
回答者数	3000	62	339	384	502	484	433	796
歴史的な建物や遺産が保存されていること	38.5	38.7	31.3	38.0	38.4	39.9	39.7	40.5
伝統的なお祭り・行事・芸能などのこと	32.3	35.5	27.1	38.0	35.1	33.9	31.9	29.0
生活の中での文化（茶道・華道・書道・食文化など）のこと	25.2	17.7	16.5	22.4	23.9	28.5	27.7	28.3
美術・音楽・演劇・ダンスなどの芸術のこと	19.8	22.6	20.9	18.0	18.1	18.2	21.7	20.9
新しいものが創造されていること	8.4	8.1	8.6	5.7	5.2	7.2	9.0	12.1
学問が盛んで教育水準が高いこと	7.9	8.1	9.4	7.0	4.0	5.6	7.9	11.4
科学や技術が発達していること	6.2	6.5	6.2	5.7	5.0	5.0	4.8	8.7
映画、マンガ、アニメーション、ゲームなどのこと	5.7	16.1	8.8	9.9	7.2	5.2	4.2	1.6
その他	0.8	1.6	0.3	-	0.2	1.7	0.9	1.0
特にない	10.7	3.2	9.7	9.4	12.5	10.3	11.3	11.1
わからない	11.8	12.9	19.2	13.5	13.9	12.0	9.0	7.8

（出典 文化庁『文化に関する世論調査報告書』文化庁地域文化創生本部、2023 年、p. 46 による。以上の表に、項目を一部省略し、体裁について最小限の手を加えた。）

令和7年度 山口県立大学 国際文化学部 文化創造学科 総合型選抜 二次選抜  
<個人プレゼンテーション> 出題意図

【資料1の出典】

[スキャナー] 街の書店 文化拠点に 国が支援 PT

2024年3月13日 『読売新聞』東京朝刊 p.3 (全2,121字)による。  
(紙面は、項目を一部省略し、体裁について最小限の手を加えた。)

【資料2の出典】

文化庁『文化に関する世論調査報告書』文化庁地域文化創生本部、2023年、p.46  
による。

(表は、項目を一部省略し、体裁について最小限の手を加えた。)

【出題意図】

資料1、資料2の内容を踏まえ、地域社会における文化的基盤としての書店のあり方について、自らの考えをプレゼンテーション要旨にまとめさせる。そして、ことばや絵・デザインなどの情報を用いた画紙3枚を使用して、適切な表現でプレゼンテーションしていく能力をかかる。

プレゼンテーションを通して、日本文化や地域文化の価値を評価し、また、異なる文化や多様な考え方を持つ人々と交流し、地域文化の活性化に貢献していくための、知識・理解、思考力、判断力、表現力、主体性を評価する。

(232字)